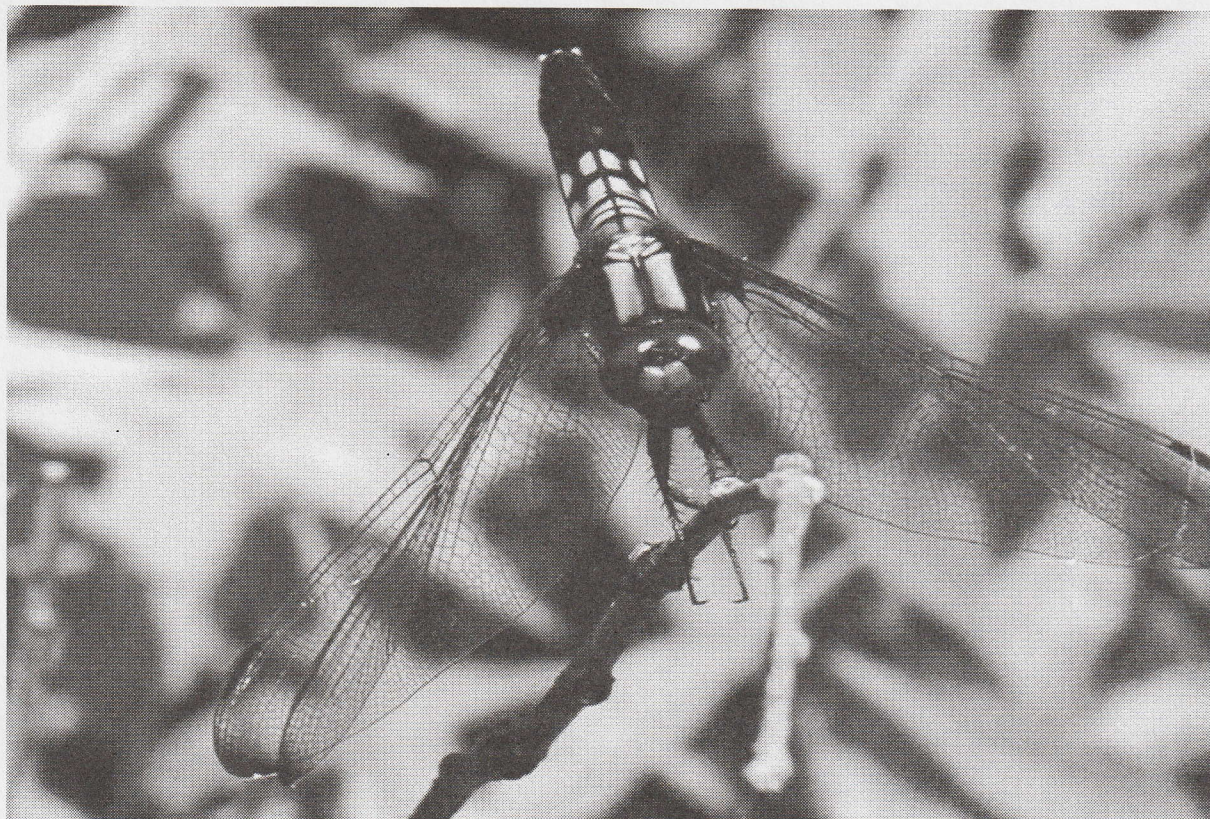


協議会ニュース

No. **174**

2022.6



Contents

- 1 表紙
- 2 書面表決結果について
- 3 ネイチャ・フィーリングについて
- 4 生物分類・生態研修会 ご案内
(共催:岐阜県自然観察指導員連絡会)
- 5 愛知県の外来植物 6
- 6 オ井戸流(湿地シリーズ 8)
- 7 支部自然自慢
- 8 支部総会報告
支部総会報告
- 9 支部総会報告
支部総会報告
- 10 ご案内/編集後記

理事会

日本自然保護協会
監事 鳥山 由子
岐阜県博物館学芸部
自然係長 説田 健一
東三河支部 瀧崎 吉伸
名古屋支部 岡島 栄子
西三河支部 三田 孝
名古屋支部 滝田 久憲
知多支部 榊原 靖
西三河支部 三田 孝
東三河支部 星野 芳彦
事務局

今号の表紙

オオシオカラトンボの成虫(♀) (東谷山湿地群の会) 福田 利夫
生き物のアップの写真募集中!

書面表決結果について

理事会

令和4年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)の結果のお知らせ

日頃は愛知県自然観察指導員連絡協議会の活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。令和4年4月20日現在、事務局まで書面表決書を送付された方は会員数287名中114名です。議案の可否につきましては、ご提出いただいた書面表決書のうち、下記に記載したように賛成は過半数を超えました。可決とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

書面表決書

令和4年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)について、次のとおり議決に関する権限を行使します。(※各議案について「賛成」「反対」のどちらかに○を付けていただきました。)なお、意見もいただいています。理事会で検討できたらと思います。

2022(令和4)年4月20日現在

第1号議案	令和3年度事業報告	賛成	114	反対	0	
第2号議案	令和3年度決算報告	賛成	114	反対	0	
第3号議案	令和4年度役員(案)	賛成	113	反対	1	
第4号議案	令和4年度事業計画(案)	賛成	112	反対	1	保留 1
第5号議案	令和4年度予算(案)	賛成	113	反対	1	

【意見】(※ご意見がありましたらお書きください)

- ・第4号議案の4の会場の再検討をお願いします。
 - ・どこかの機会で支部間の交流ができたら良いなと思います。
 - ・行事を計画する場合、もっと交通が便利なところでやったら如何でしょうか。
- ※その他、励ましの言葉をたくさんいただきました。

ネイチュア・フィーリングについて

日本自然保護協会（NACS-J） 監事 鳥山由子

ネイチュア・フィーリングは、日本自然保護協会（以下、NACS-J と称す）が全国各地で進める自然観察会の一つで、その目的は、NACS-J の全ての自然観察会と同じく、「自然を大切なものだと思い、その自然を守りたいと思う気持ち」を持った仲間を増やすことです。自然の仕組みを理解し現在の危機的な自然の状況を知れば、人は、自分の生活を見直し、できるだけ自然の一員として生活をするのが大切だと思うでしょう。そのためには、実際に自然に触れて自然の美しさや、その仕組みに感動する体験が不可欠です。ネイチュア・フィーリングは、仲間とともに野外に出て、自然と向き合い、感動を分かち合う観察会です。

自然の中では、静かに自然に向き合い、五感を研ぎ澄ませて自然からのメッセージに心を向けたい。そして、一人一人が感じたことを他の人と分かち合いたいものです。自分が感じたことを他の人にも体験してもらい、みんなで感動する瞬間は本当に嬉しいものです。また、他の人が感じたことを知ることで、自分では気がつかなかった自然のメッセージに気づくこともできます。ネイチュア・フィーリングは、このことを最も大切にしています。

ネイチュア・フィーリングのもう一つの特色は、「からだの不自由な人と一緒に自然を観察する」ことを、初めから掲げてきたことです。実は、「五感を研ぎ澄ませて自然を感じる」とことと、「からだの不自由な人と一緒に自然を観察する」ことは表裏一体です。なぜなら、からだの不自由な人は、その不自由さゆえに自分が使える感覚をフルに使っていて、その感覚のエキスパートだからです。一緒に観察すると、その個性的な観察に刺激を受けて、自然観察の新しい切り口に気づかされることも多いのです。

しかし、ネイチュア・フィーリングは、からだの不自由な人のための観察会ではありません。からだの不自由な人を含めて誰もが参加できる観察会です。もちろん、からだの不自由な人の参加は大歓迎。しかし、からだの不自由な人は人口比では少数派だから、いつも参加しているとはかぎりません。そのときに、「今日は、からだの不自由な人がいるから、ネイチュア・フィーリングにしよう」「今日は、からだの不自由な人はいないから、普通の観察会にしよう」とは考えないでください。参加者が誰であっても、五感を使って観察し、感じたことを伝え合う観察会をしましょう。それが、ネイチュア・フィーリングなのです。

ネイチュア・フィーリングは、「観察第一、解説は二の次」をモットーに、とにかく全員で実物に触れて、感じたことを伝え合うことを大切にしています。そのためには、少人数の観察会が理想ですが、大勢の参加者がある場合は小さいグループに分けて実施することもあります。ネイチュア・フィーリングの特別なプログラムというものはありませんが、プログラムの中に、からだの不自由な参加者の強みを生かしたテーマが一つでもあれば理想的です。それは、からだの不自由な人が力を発揮できる機会となり、他の参加者には感覚活用の可能性を発見し認識する、心に残る体験になるからだと思います。

2022(令和4)年度 生物分類・生態研修会 ご案内

共催 愛知県自然観察指導員連絡協議会・岐阜県自然観察指導員連絡会

● 日 時：2022年8月20日(土) 受付12:30～

● 場 所：岐阜県博物館 けんぱくホール 会場定員 65 名

岐阜県関市小屋名 1989 岐阜県百年公園内 電話：0575-28-3111

● 研修会： 13:00～14:20(講演) 休憩(10分) 14:30～15:00(意見交換会)

● 講 師：説 田 健 一 氏 岐阜県博物館学芸部自然係長(学芸員)

● 演 題：「あなたの知らない標本の世界」

● 講師プロフィール

京都府立大学大学院農学研究科修士課程修了。平成3年から岐阜県博物館学芸嘱託員(昆虫担当)。平成8年から岐阜県博物館の動物担当の学芸員。著書として、「鳥獣採集家折居彪二郎～鳥学・哺乳類学を支えた男(共著)」
「神の鳥ライチョウの生態と保全 日本の宝を未来へつなぐ(共著)」がある。

● 講演要旨

博物館で働く人を学芸員といいます。大きな博物館では仕事が細分化されていますが、小さな博物館では、資料の収集や整理、展示の企画、講座の運営等、少ない人数で行わなくてはなりません。何でもやらなければならないので「雑芸員」と自嘲する人もいますが、何でもやる学芸員にしか見えない世界もあります。

私はもともとサルノコシカケに生息する甲虫の生態を研究していました。岐阜県博物館には昆虫担当の嘱託学芸員として採用されました。当初は自身の専門である甲虫の研究に打ち込むことができましたが、動物担当の学芸員として正職についてからはそうはいきません。まずは前任者が受け入れた膨大な貝類標本が立ちはだかりました。ボランティアの助けを借りながらなんとか整理することができましたが、当時あまり楽しめなかったことを覚えています。

数年後、明治後期から昭和初期に収集された鳥類標本の寄贈について、岐阜市在住のご遺族から相談を受けました。これは手に余る感じたので、千葉県にある鳥類を専門とする有名な研究所や博物館を紹介してお茶を濁そうとしましたが、ご遺族と話をする中で考えが変わり、標本を受け入れることにしました。このコレクションの整理には思わぬ展開がありました。収集者が自身で捕獲した標本もあったのですが、ほとんどは折居彪二郎が採集したものだったのです。誰だ？と思われるかもしれませんが、折居は明治後期から昭和にかけて活躍した採集人で、山階芳麿や黒田長禮などいわゆる殿様学者の依頼で、満州や台湾など外地の鳥獣を捕獲した人物です。私はなぜ折居の標本が岐阜にあるのか、とても知りたくなりました。幸いなことに折居が記した膨大な日誌や手紙が北海道の図書館に残っていました。図書館職員の冷たい視線を浴びながらほぼすべてをコピーし、標本の整理に役立てました。

折居の手紙は岐阜市のご遺族も保管しており、その中で折居は、京都の教材会社を紹介してほしいと書いていました。手紙に書かれた内容を調べていた頃は、ちょうど学校から不要になった理科室の標本の処分を依頼されるようになった時期でもありました。自然史の標本は採集地、採集年月日等のデータがあることで価値が生じます。残念ながら学校標本には採集データがないことが多いので自然史標本としての価値はありませんが、標本ラベルには教材会社の名前があることがあります。そもそも学校は、ライチョウ、アホウドリ、カモノハシなど今となっては得難い標本を、どのように手に入れていたのでしょうか。私は教材会社のカタログを集めることにしました。収集にはずいぶん時間がかかりましたが、学校標本は産業史や教育史の資料としての価値があることが分かりました。

このように、私は昆虫担当の学芸員として就職しましたが、さまざまな標本との出会いによってまったく予想もしなかった世界に足を踏み入れることになりました。講演会では柳原鳥類コレクションと学校標本を中心に、あなたが知らないマニアックな標本の世界について、お話ししようと考えています(詳細はチラシ参照)。

愛知県の外来植物 6

東三河支部 瀧崎 吉伸（愛知県外来種検討委員）

緑化材由来の帰化植物(2) マメ科編

緑化材由来の帰化種植物には、イネ科以外にも多くの種類があります。一時期、ワイルドフラワーミックスと呼ばれるオオキンケイギクやハナビシソウ、セイヨウノコギリソウなどの様々な花のきれいな植物の種子を土手に吹き付けることがはやりました。それらの花は美しいのですが、ある程度自然度の高いため池や河川の土手にも、いかにも園芸種的なものが生えているのは日本の風景になじまないと批判がありました。

その結果、日本の在来種を吹き付ければ問題は無いだろうと、在来種と同種とされる種子を中国から輸入して吹き付けることが広く行われています。写真のキダチコマ



ツナギは、英語版の中国植物誌では日本のコマツナギと同じ種として扱われていますが、どう見ても異なる植物です(中国植物誌を執筆された日本のマメ科の大御所先生は同じだと主張されていますが)。もしこれほどに形態や生態の異なる種が、日本のものと同じだとすると、当然交雑が考えられることになり、別種であるよりも大きな遺伝子汚染の原因になるはずです。

キダチコマツナギ以外にもハギの仲間が多く緑化材として持ち込まれて、自然度の高い山中の林道脇などに繁茂しています。とくにヤマハギは在来系統と形態的には区別がほぼ困難で、花期がやや早くなることくらいしか区別が付きません。当然在来系統との間に雑種を作り、その雑種が広く分布を広げ始めています。下の写真のように



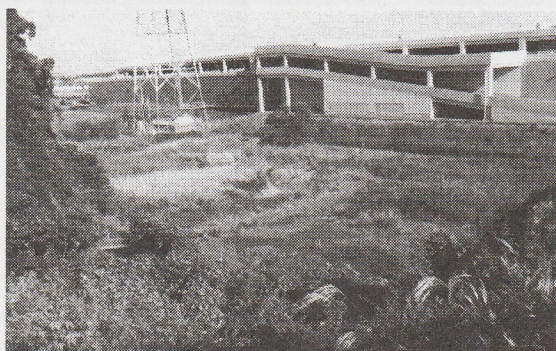
なんだかしっくりこないヤマハギに自然度の高い山中で出会うことがしばしばあります。本州では鳳来寺山系にしか生育しないクロバナキハギとの間にも、雑種を形成しているようです。生物多様性の危機と言えます。

ハギの仲間は種間雑種を容易に生じ、その雑種が多くの場合稔性を持ちます。日本には生育の無かった中国原産のオクシモハギが、豊根村辺りの林道にたくさん吹き付けられています。その結果、周囲に生育していた自生のヤマハギやツクシハギとの間に雑種を形成していて、現地でも、持ち帰ってからの標本の観察でも同定ができずに“????”が頭の中を飛び回るというような、調査者泣かせの現状ができあがっています。

1. 才井戸流のこれまで

才井戸流は、名古屋市守山区にある湧水湿地。河岸段丘の下段にあたり、河川由来の地下水が湧き出る。段丘上部からも水が染み出ている一帯は湿地になっている。数十年前までは水田だった。26年前この地域は区画整理事業を始め、才井戸流は公園用地として確保された。その後はいくつかの団体が「名古屋最大の湧水公園」として未来を託して調査や保全を行ってきたが、諸事情で区画整理は中断し、関わった団体の多くは支援を退いた。その後は、「中志段味の自然を次世代に伝える会」のメンバーが主にホタルの調査・保護活動を続けてきた。

現在は、事業の進捗により北側に大型店舗が建ち、拡張された道路を車が沢山通るようになった。今後も店舗は増え、周りに残されていた空き地は建物に置き換わっていくことになっている。



南東側から蟹原湿地を見下ろす(建物は大型店舗) 2021. 10. 25

南側台地には、湿地を守るように地域の神社がある。境内や斜面には樹木が茂り、野鳥が好んでやってくる。砂礫状の斜面からは湧水がある。南東側には、名古屋市の旧浄水汚泥処分場の下を通る管からやや汚れた水が集まる。湿地の水路には、地下・斜面・管から水が集まり、西へと流れる。

一番多いのは地下水の水量だ。夏は冷たく、冬は暖かい。中でも蟹原湿地と特別な

名前の付く場所は、地下水が豊富に湧いてくる。土壌は中～富栄養。この環境を好む植物や生き物が豊かに育つ。初夏、湿地には、トンボやホタルが飛び、メダカが群れ、背の高いヨシが茂る。

2. 才井戸流の保全

才井戸流の保全に関わる中心メンバーは、子供の頃からここで遊び、稲作を営んできたシニアたち。親しんできた風景にはもう戻れないが、少しでもこの自然環境が保たれるよう管理している。

2年前、私が保全に参加を始めた頃はヨシが生い茂り、放置されているように感じた。1年間かけて観察を記録し、「湿地は管理をしなければ、遷移する(消滅する)」ことを伝え、「観察を続けながらの草刈り」を提案してきた。草刈りを積極的に行うようになって、近年見られなかった植物が顔を出すようになった。

この冬、メジロがヨシの茎にたくさん集まってついばんでいる様子を見た。観察に訪れている野鳥の会の方から、ヨシの茎にいる虫を食べていることを教えてもらい、湿地を覆う草や木々は生き物たちの楽園であることを改めて知った。

3. そして、これから

今後は、生き物の居場所に配慮し、ローテーションで草刈りを行うように計画している。周辺環境の変化を考えると、いつまでこの湿地を維持できるか見通せないが、できることを続けて多様な自然を守っていききたいと思う。



ミズトラノオ(蟹原湿地) 2021. 8. 25

支部自然自慢

西三河支部 三田 孝

西三河地方は愛知県の中央部を北東から南西に縦断する位置にあります。中央に矢作川が流れ、北東部の高原から中流域の里山、河口部の平野、そして三河湾に浮かぶ島々と変化に富んだ自然を楽しめます。三河湾の島々を観察地に含められるのは当支部の自慢でしょう。

中でも佐久島は自然観察の適地として知られています。磯の生き物や海岸植物、地質的には師崎層群の地層観察に適しています。

現地へは一色魚市場隣から佐久島行の渡船が出ています。観察に適しているのは島の東部。東港で下船し、そのまま弁天島方面へ移動します。男子岩（おんぞいわ）付近では磯の生き物の垂直分布を観察できます。

崖に現れる断層や砂泥互層の様子も見られます。風化して脆くなった崖の上部に無数の穴を見つけることができるでしょう。南方系のエサキムカシハナバチの集団営巣地です。7、8月の短い期間しか活動しません。カラスザンショウの開花と連動しているように思われます。

磯伝いにさらに東に行くと紫色の砂浜（新谷海岸）に出ます。かつてムラサキイガイが大繁殖したことがあり、その遺骸が砂粒に混じっているからです。潮が満ちてくると磯伝いでは戻れなくなることがありますが、新谷海岸からは島の内陸を通して東港に戻ることができます。

最近はレンタルサイクルで野外アート作品を巡る観光客で人気の島となっています。しかし、食事ができる店は東港周辺に数件のみですので、弁当持参が良いでしょう。また、滑りやすい磯歩きには長靴やサンダ

ルより運動靴が適しています。渡船場の待合室にある島内地図も役に立ちます。



砂泥互層



カメノテ、クロフジツボなど



巣穴から排出された土が堆積している

名古屋支部総会報告

滝田 久憲

知多支部総会報告

榊原 靖

日 時：2月27日（日）14：00～

場 所：名古屋市西区生涯学習センター

参加者：21名 委任状：44名

令和4年度の名古屋支部総会が名古屋市西区の浄心交差点近くにある「名古屋市西区生涯学習センター」の視聴覚室で開催されました。新型コロナウイルス感染症の第6波の感染拡大に伴い、1月21日に愛知県に対して国からまん延防止等重点措置が発令されました。感染拡大がなかなか収まらず、総会当日もその措置が継続中でしたが、生涯学習センターの指示に従い、十分な感染対策をとりながら実施しました。支部長の挨拶の後、議長と記録係が選出され、議事が進められました。

最初に令和3年度の各種事業の報告が行われました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、予定されていた定例自然観察会、あいちの自然観察会、なごや自然教室などの自然観察活動の一部が中止となりました。続いて、会計報告がなされ、事業報告と共に承認されました。

令和4年度は名古屋支部が設立されて40周年に当たります。そこで、設立記念事業を含む令和4年度の事業計画とそれを実施するための事業予算が議論され承認されました。

例年であれば、総会終了後に講演会を実施していますが、中止とし、参加者の交流会や40周年記念事業の内容に関する意見交換会を実施しました。

令和4年度支部役員

支部長 滝田 久憲

副支部長 各定例自然観察会代表者

定例自然観察会の新代表者 安井弘

日 時：2月20日（日）9：30～11：30

場 所：阿久比町勤労福祉センター（エスペランス丸山）集会室3及び4

参加者：28名

新型コロナのまん延防止等重点措置が実施される中でしたが、会場の使用に「待った」がかからなければ実施しようという準備段階での合意に基づいて総会を開催しました。前年同様、広い会場を用意して密を避け、手指消毒やマスク着用などの感染防止策を施したうえでの開催になりました。

まん防実施中ということで直前の参加取りやめ表明もありましたが、参加者数は前年とほぼ同数の28名でした。

代表挨拶の中で、今年の5月に知多自然観察会は発足40周年の節目を迎えること、その記念行事を11月に行う予定であることが紹介されました。県協議会会長の浅井さんから、前年の7月に名古屋市の小幡緑地で行われた自然観察指導員講習会を引き合いにして、自らが受講した頃は若い受講者が多く、自然を守りたいという気概に富んでいたように思うが、最近は高齢者が多く、自然に親しみたいという目的での受講が多くなっているように思うとの感想が述べられました。

事業報告では、前年同様コロナの影響で特に市町からの受託観察会が中止となったことが報告されました。しかし、前年と比べると実施できた観察会の数は増えていて、少しずつコロナ以前に近づきつつある印象です。

「春・秋の研修旅行」、「持ち寄り会」は中止となりました。

新役員を紹介します。若返りを模索中ですがなかなか果たせません。一年間よろしくお願いします。

令和4年度 知多自然観察会役員

顧問 降幡光宏 代表 榊原 靖

副代表 榊原正躬、南川陸夫

庶務 吉川 勉 会計 森田琢磨

西三河支部総会報告

三田 孝

西三河支部は総会を2月5日(土)に岡崎竜美ヶ丘会館で予定しましたが、新型コロナウイルス感染防止のため昨年につき中止としました。代わって、議案を会員に送付し書面審査を受け、ハガキによる決議になりました。2021年度の会主催観察会、研修会は5月王滝溪谷観察会と6月天生湿原研修会が中止になりましたが、7月タカドヤ湿地、10月六所山、1月油が淵での観察会は実施されました。地域定例観察会も感染防止対策をしながらも全て実施することができました。2022年度は昨年度中止になった企画を再び企画に入れました。

会主催観察会は4回。4/17(日)「王滝溪谷」は溪谷の春の花、8/27(土)「西浦海岸」は海辺の生き物、10/30(日)「西尾万燈山」は野山の秋の花、1/21(土)「岡崎東公園」は冬の樹木と野鳥の観察です。会員研修会は6/4(土)「天生湿原」で日本海型ブナ林と高層湿原を楽しもうという企画をしています。

地域定例観察会は昨年同様の曜日配置です。おかざき自然体験の森自然観察会(毎月第4日曜日9:30~12:00、くらがり溪谷自然観察会(毎月第2日曜日9:00~15:00 1、2月は休み)、おかざき自然体験の森植物観察会(毎月第3土曜日10:00~12:00 8月は休み 12月は第3土曜日)、平戸橋自然観察会草だらけの会(毎月第4日曜日9:00~12:00)、亀城公園自然観察会(3/20、5/15 10/16、12/18 9:30~12:00)

総会議案はハガキ投票の結果、多数の賛成を得て全ての議案を可決しました。

東三河支部総会報告

星野 芳彦

2022年度第20期第1回定時通常総会(当支部は、NPO法人の為、総会はこのような名称になります。)は、去る2月19日(土)の午後1時半より豊橋市市民センターカリオンビル4階中会議室で行われました。昨年は、コロナ禍で書面での提案とハガキによる表決を行いましたが、今回はハガキによる表決を行った上で、一般会員にも参加を呼びかけ、拡大理事会という形で総会に替えることとしました。理事10名、一般会員3名の13名が出席しました。

総会の議案書に対しては、会員総数71名の内回答数が58あり、すべての議案が賛成多数で承認されました。

ただ、一部の会員の参加ではありましたが、対面での会議は、直接「言葉を交わす」といった形で意見交換ができて意義深いものであると感じました。

今年は、当支部の創立40周年(NPO法人化20周年)にあたり、「明日に伝えよう、すばらしき東三河の自然!」というテーマを掲げ、昨年、記念行事実行委員会を立ち上げました。通常観察会を充実させ、スペシャルイベントとして、9月21~25日に「自然展」、翌年1月14日(土)には、記念講演会&実践発表会を計画しています。詳しくは、協議会ニュース175号でお知らせします。準備は進みつつありますが、来月には、記念行事を踏まえた臨時総会を招集します。

右の画像は、会員の記念品として企画したループです。

これがこれからの観察会で活躍しそうです。



あいちの自然観察会

実施日	時 間	実施場所	テ ー マ	集 合 場 所	担 当
10月16日	9:30~11:30	東浦自然環境学習の森	里山の秋を見つけよう	東浦自然環境学習の森駐車場	知 多
10月30日	9:00~12:00	西尾ふれあいの里	野山の秋の花	西尾ふれあいの里駐車場 9:00	西三河

生物分類・生態研修会 ご案内

共催 愛知県自然観察指導員連絡協議会・岐阜県自然観察指導員連絡会

- 日 時：2022年8月20日（土） 受付12:30～
- 場 所：岐阜県博物館 けんぱくホール 会場定員 65 名
岐阜県関市小屋名 1989 岐阜県百年公園内 電話：0575-28-3111
- 研修会：13:00～14:20（講演）休憩（10分）14:30～15:00（意見交換会）
- 講 師：説 田 健 一 氏 岐阜県博物館学芸部自然係長
- 演 題：「あなたの知らない標本の世界」

当日は9:30から百年公園の駐車場近くで受付。10:00～11:00まで岐阜県自然観察指導員連絡会指導員の案内にて百年公園内の自然観察会。11:00～12:00は博物館内の見学を予定しています。時間に余裕のある方は、午前中からご参加ください（詳細はチラシ参照）。

<編集後記>

中央構造線ツアーは鳳来寺山自然科学博物館 学芸員 西村拓真氏の異動がなかったので9月19日（月・祝）実施の予定です（詳細はチラシ参照）。

7月30日（土）・31日（日）に予定していたネイチュア・フィーリングの会場ですが、小幡北コミセンから東谷山フルーツパーク本館1階の会議室に変更になりました。

7月30日9:30から受付。10:00～12:00までは県協議会として県内外のネイチュア・フィーリングの実践報告、参加動機や座談会を予定しています（詳細はチラシ参照）。

編集スタッフ	石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX：052-711-3087

E-mail: norinameobata@yahoo.co.jp Web Page: <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）